

播磨町歴史 NEWS

郷土資料館が昭和60(1985)年に開館して30周年を迎えます。そこで、まちの発展と文化財にまつわる秘話などを歴史ニュースとして紹介します。

文責 播磨町郷土資料館 館長 宮柳靖 ☎079(435)5000

新幹線が佛性寺の向きを変えた!?

今年、昭和50(1975)年3月10日に山陽新幹線(新大阪―博多間)が開業して40周年にあたります。初回は、昭和47(1972)年に新大阪―岡山間で営業運転を始めた新幹線にまつわるお話です。

播磨町二子の新幹線側道沿いに正和元(1312)年に創建された慈雲山佛性寺があります。山門の前に立つと本来真正面に見えるはずの本堂が、ここでは見られません。それは、新幹線が本堂の向きを変えてしまったからです。

当初国鉄(現JR)では、学校や神社仏閣を避けて計画が立てられていました。ところが、兵庫県では騒音や振動を緩和するため側道を両側につけることを義務付けていました。東海道新幹線では、このような事例がなかったので国鉄はあわてたようです。国などから兵庫県に対して規制緩和の要請もあったと思われるが、県は例外を認めず方針を貫きました。そのため、国鉄は補習工事が容易にできるという利点もあり、計画を大幅に修正し、県内すべての沿線で側道を確保した用地買収を行いました。

佛性寺では、境内南にある詣り墓と本堂の一角が側道用地にかかり、詣り墓は

薬王寺跡地へ、本堂は老朽化していたので取り壊して新築することにしました。このとき東向きの本堂を庫裡(住職や家族の居間)と並びの南向けに建て替えたので、山門に対して直角となり正面から見えなくなったのです。檀家は現在100軒余りですが、江戸時代には半径100m余りの狭い地域に佛性寺、妙楽寺(新幹線を挟み少し南)、薬王寺(佛性寺北で明姫幹線沿い)の3か寺がありました。当時わずか数十軒でそれぞれのお寺を建立できたのは、信仰が厚かったことに加え、人々の商売が繁盛し財力があつたからだと思われます。廃寺となったのは、妙楽寺が明治前後、薬王寺が昭和39(1964)年で、佛性寺の檀家となっています。

また、本堂を通り過ぎた奥の阿弥陀堂前には、寛文5(1665)年と刻まれた六地藏菩薩が安置されています。このお地藏さんは、妙楽寺の埋葬墓地にありましたが、明姫幹線の道路工事で現在の場所に移されました。六地藏は、凝灰岩の石にそれぞれ3体ずつ彫られていますので、佛性寺に行かれたときはぜひご覧ください。



◀ 昔の佛性寺

町の人口 3月1日現在

住民基本台帳人口()は前月比

34,761人(+25人) 男…16,984人(+16人) 世帯数…14,427世帯(+23世帯)

女…17,777人(+9人)